

おもしろ樹木を探そう

- 時期 いつでも
- 時間 1時間
- 場所 校庭
- 対象 小学生 1グループ4～6人
- 指導者 1人

1 ねらい
身近な樹木に興味関心を持つ



2 事前準備

- 道具 学校の地図 クリップボード 筆記用具

3 プログラムの展開

時間	活動	備考
導入 (5分)	【活動の説明】 「面白い木をグループで見つけて、一押しを紹介します。」「木に面白いニックネームをつける感じ」「見つけた場所を地図に印をつけて」「勝ち負けはないが、あえて言うなら、みんなが笑ってしまう面白いものを見つけたグループが勝ち」	・子どもが木に興味を持つのはとても難しいが、学校の木は「自分たちの木」という意識があるので、面白いと思った木にニックネームを付けるのは割と乗ってくれる。 *初めに面白樹木の例は見せない。例えばアルパカみたいな木を見せると、アルパカしか見つけなくなる。
グループ分け (5分)	【班ごとに分ける】 既存の班でもよいが、自由にグループを組ませてもよい「感性が違う人の方が意外なものが見つかるよ」 「20分後、〇〇に集合」	・探すエリアを決めておくと、樹木がかぶらない。1～3班は正門側、4班から6班は校庭の周り、等 ・入ってはいけない個所を注意する ・集合場所を決めておく。
体験 (20)	【班に分かれて面白樹木さがし】 「木の幹だけでなく、根や葉にも注目してね。」	・なかなか見つからない班は、「文字や顔、動物に似ている木はないかな？」などヒントを与える
発表 (25分)	グループ内で一番面白いと思う木を案内する。「なぜ面白いと思ったの?」「なぜこんな形になったと思う?」。	・地図を見て近い場所から回っていく。 ・子どもたちは、想像以上に面白い木を発見する。 ・人と違うものを見つけたグループをほめる。
まとめ (5分)	「木の形には、すべて意味があって、木がそれぞれ一生懸命生きていることを表している。学校の中にはたくさん魅力的な木がいたね。木は少しずつ変化するから、これからも観察しよう。」	・面白いと思ったことをきっかけに、今後も生き物として愛着を持つように展開していきたい。

4 展開

- グループで見つけた面白樹木がこれからどうなっていくか、観察してみよう。
- 季節の変化でその木がどうなるか見てみよう。

5 小学校の教科書との関連

- 1 学年 生活科
- 学習指導要領

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気づき、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

【子供が見つけたおもしろ樹木と解説例】



「アルパカみたい」

3本のマツが植えられているが、1本だけ先端を切られず伸びているので、アルパカのようになった。

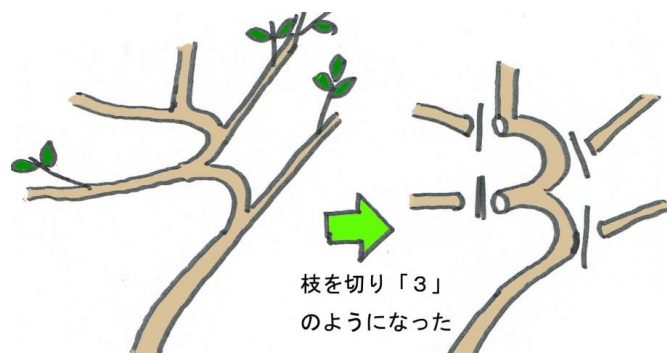


「クワガタみたい」アオキの新葉



「宇宙みたい」フィリアオキ

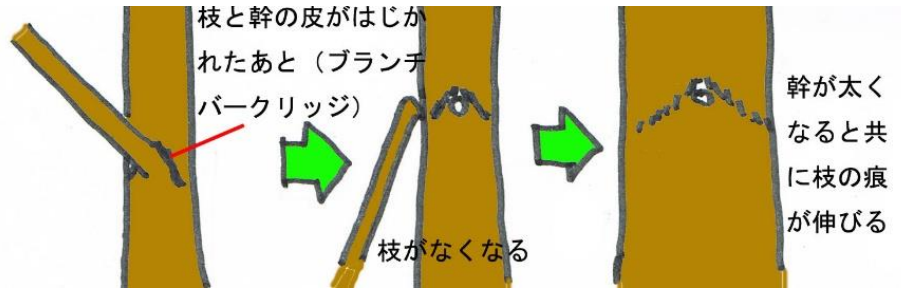
斑入りはウィルス病が原因なのとそのような品種がある。



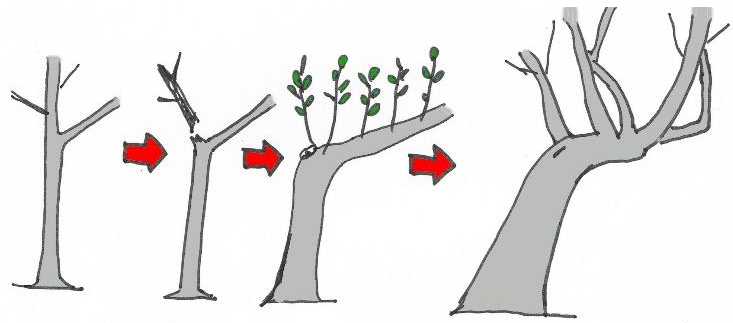
「数字の3みたい」



「目みたい」



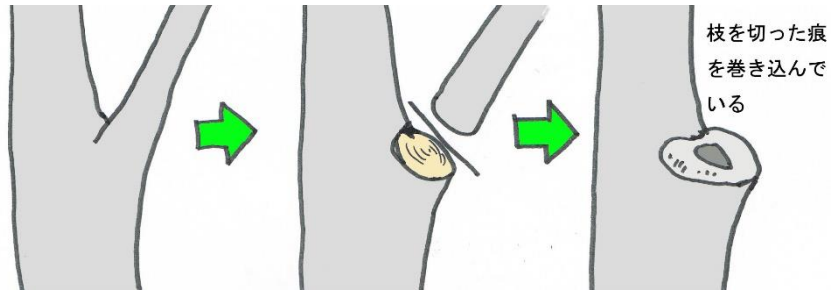
「イナバウワーみたい」



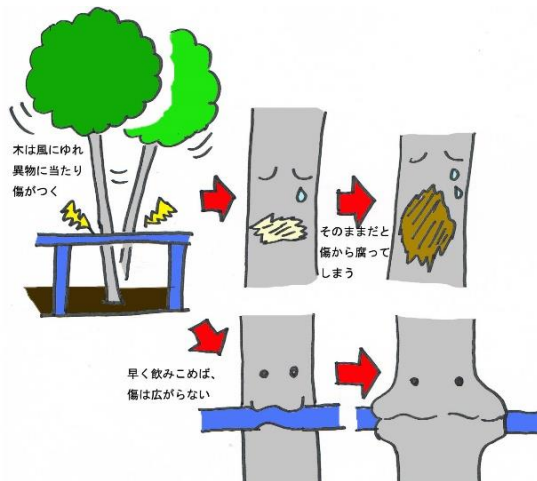
枝の先端がなくなり、横枝がバランスをとろうとしている



「便器みたい」



「くいこんでるー」



異物に触れると木は飲み込もうとする。無理にとらないほうがよい。

(作成：森林インストラクター 岩谷美苗)